

インドネシア水道に係る情報収集 No. 210601-1J

検索サイト	Google	実施日	2021/06/01	実施者	TADOKORO
検索方法：「インドネシア AND 水道」で検索（インドネシアの水道と表示される）					
URL：https://www.provej.jp/column/ar/water-industry/					
標題：世界における水問題と SDGs。世界市場規模 約 100 兆円の水ビジネスにまつわる事業プレイヤーと日本企業の立ち位置 PROVE 社コラム 2021/01/11					
海外市場事業戦略サポート等を行っている PROVE 社による世界の水事情と水ビジネスに関するコラムの紹介である。日本のところを一部抜粋した。					
目 次					
1 世界における水問題と SDGs 2 水道水が飲める国 フィリピン、インドネシア カンボジア、ミャンマー、ラオス、ベトナム、タイ、インドネシア、フィリピン 3 海外と日本の飲料水の違い 4 急拡大する水ビジネス 世界の水インフラ需要の増加 水ビジネスの世界市場規模：約 100 兆円越え 5 世界における水ビジネス動向 6 水メジャー企業 7 世界大手 4 社 Veolia Environment Suez Environment GE (General Electric Company) SIEMENS 8 その他 Hyflux TaKaDu Manila Water ACCIONA Agua IDE Technologies VA Tech Wabag Kemira Grundfos 9 日本の立ち位置 水関連ビジネスの主な企業 日本企業の優位性 日本企業の問題点 国際競争力を持つために 10 最後に			【抜粋】 9 日本の立ち位置 現在、海外の水ビジネス市場規模は約 7.5 兆円とされていますが、日本企業の売り上げは 1000 億円強しかないほど、国際競争力に欠けています。 今後、人口増加に比例して深刻な水不足による上下水道の需要増、新興国の工業化・経済発展による工業用水の需要増によってこの市場は 2025 年までに 110 兆円までに膨らむという試算もある中、日本はどのようにして世界市場に乗り出していくのでしょうか。 日本の水ビジネス企業は、部材や部品、海水淡水化や排水・下水再利用などの技術面において優れた競争力を持っていますが、世界的な水メジャー企業のようにプロジェクト全体の運営・管理までを一貫して行うサービスを持っていません。 しかし、海水の淡水化に欠かせないハイテク膜処理や、漏水防止、浄水場・施設の維持管理のノウハウにおいて日本は世界一とされており、海外からの評価は高いようです。 そのため、経済産業省は官民一体となって取り組み、今後国内の水関連ビジネスが世界シェア 6%を獲得することを目指しています。		
備考 まとまった参考資料として紹介。PROVE 社を推奨するものではない。					